

序

この報告書は、（公財）中部産業・労働政策研究会が第13期（2023年9月～2024年8月）に行なった年度調査研究「中堅・中小企業の現状と課題および今後の方向性 ～自動車業界におけるサプライチェーンの視点から～」についてまとめたものです。

中堅および中小の企業においては、慢性的な人手不足に加え、コロナ禍等による各種コストの上昇圧力が続く中、「価格転嫁も含めた企業間取引の課題解決ができていない」「カーボンニュートラルに取り組みたいが、経営にどう活かしたら、また何から始めたらよいかわからない」などの声もあるようです。

そこで本調査研究は、弊財団賛助会員企業の関係部署および豊田市雇用対策協会のご協力を得て、中堅および中小の企業に対して最新の困り事や問題認識の現状等をヒアリング（インタビュー）調査し、事業全般の懸案事項の現状を把握し、喫緊の経営課題等への対応策の検討および考察を通して、今後の方向性や取り組み等を提言として発信することを目的といたしました。本報告書が各企業の労使の方々にとって、これからの働き方の議論や対策検討の際の一助になれば幸いです。

報告書の作成にあたっては、研究主査をお務めいただいた中京大学の弘中史子教授、立教大学の遠山恭司教授、中京大学の濱田知美准教授、同じく浜田敦也講師に多大なるご尽力をいただきました。また、ヒアリング調査にあたっては、各企業の方々に大変お忙しいところお時間をいただきご協力をたまわりました。この場をお借りして、皆さまに心から厚く御礼申し上げます。

2024年12月

公益財団法人 中部産業・労働政策研究会

理事長 鶴岡 光行